



優秀賞

ごはんの力

秋田市立城東中学校 一年 松^{まつ}田^だ 鈴^{りん}

私は、ソフトテニス部に所属しています。練習試合の時のことです。遠方での試合だったため、友達のお母さんが昼食の時間になっても来ることができず、友達は昼食がありませんでした。私が、多めにおにぎりを持っていったので、一つあげると、とてもおいしそうに食べていました。私もうれしかったし、母も喜んでいました。私は、大会の時、このおにぎりを食べると、なぜか力がわいてきて、どんなにつかれていても、また午後からがんばろうという気持ちになります。

私は、いつも何も考えずに食べていたおにぎりが、周りの人を笑顔にさせることができることを、この時初めて知りました。今、おにぎりを食べるときは、その時のことが頭に浮かび、私も自然と笑顔になっています。

この出来事があったから、私は、お米を作ってくれた人、おにぎりを作ってくれた母により感謝するようになりました。さらに、おにぎりをよくかんで、おいしさやごはんの力を感じながら食べています。

四年前に体験した、東日本大震災の時は、お店で買ってきたパンを食べていました。その後、電気が復旧してから、いつもの食事を食べると、とつてもおいしく感じました。特にお米は、長く食べられないことが続いたので、最初に食べた時は、ごはんのもちもちの食感とあまい味が口の中に広がっていつもよりおいしく感じたのを覚えています。テレビでは、食べ物足りないというニュースが流れていて、買ったパンを食べられたことや、いつも

の食事に早くもどれたことが幸せに感じました。

また、ふだんから母は、ご飯を残そうとすると、よく、

「食べられない人がいるんだから、感謝して残さず食べなさい。」と、言います。だから、私はごはんを絶対残しません。もし、あまついでいるものがあつたらおかわりもするし、自分に盛られた分は確実に食べています。私の家族も、ご飯粒は一粒も残さないし、さらいなものが入つていてもがまんして食べます。

実際に、世界でどれくらいの人がご飯を食べられずに困つていのか調べてみました。

世界の人口は、約七十億人。その内、ご飯が食べられない人は八億四千万人以上。子供は、六千六百万人以上の人が空腹のまま学校に通つてることがわかりました。世界では、飢餓や栄養不足などで、毎年約千五百万人、四秒に一人の割合で人々が亡くなつています。

こんな悲しい現実がある一方、東京二十三区の家庭から一日に出されるゴミとして捨てられる食物の量は、アジアの五十万人以上が一日に食べる食料分に相当するというデータもあります。

私は今、一日三食、食べているご飯が、ある日突然食べられなくなるなんて考えたこともなかったし、一日三食、食べることは当たり前だと思つていました。

私は、今回調べた世界の状況を知つてさらにご飯は絶対残してはいけないと感じています。

朝食の仕たくをしてる良いにおいにさそわれ起き、おなかいっぱいになって元気に学校に行く。栄養士さんが考えた、とてもバランスの良い給食を友人と楽しく食べる。一日の出来事を、みんなて語り、母の作つてくれたおいしい夕食をお腹いっぱいになるまで食べる。私は、このなにげない、私たちには、当たり前前の生活が、すごくすごく幸せに感じられるようになりました。

だから、これからもご飯を食べられることに感謝して、残さず食べたいです。